

雜錄

◎米國鋼鐵會社合併問題

在米佐分利代理大使發

五月二十七日着電

米國に於ける鋼鐵會社合併團は其後十九日頃ヤングタウンの脱退に依り残り五社となり最近其成否を疑ふものあるに至れり、檢事總長は二十三日頃より調査を開始したるがベスレヘム、ラツカワナを初め其他關係會社代表者は右調査終了迄合併を行はざる旨を聲言せる趣なり。

六月四日着電

米國鋼鐵會社合併問題に對し新聞に依れば六月一日 Republic Iron Steel, Midvale Steel and Ordnance,

Inland steel 三社の間に合同案成立したる趣にて右合同の法は Midvale(Nicetown 工場を分離して獨立會社となす)に他二社の財産を合し名稱を North American Steel Company に改む、總資本約一億四千二百萬弗とするに在り、右合同完成の曉には全國製鋼量の約一割を製出し得ることとなる由なり。

●獨逸製鐵原料難

八幡製鐵所に達した電報に依ると獨逸製鐵界は燃料不足と原料銑鐵の不足にて困惑の狀甚しく炭價は三割方の昂騰にて製鋼に使用する良炭ですら三十パーセントの灰分を含有し甚しく炭質を低下した燃料難のため英米炭の輸入を激増して居るが價格は噸當り千六百馬克見當である、製鐵原料の銑鐵は全體の需要の二十パーセントを不足し瑞典英國から輸入して居るが右の外半製鋼品(鋼片、鋼塊)の不足も甚しく、此原料難は遂に屑鐵の使用誘發して屑鐵價

格の騰貴は重鑄物屑の如き噸當り四千五百馬克の高價を唱へるに至つた、しかし戰後恢復に熱心なる獨逸は燃料不足、原料難に際會しつゝも製品は次第に増加する程の努力を續けて居るが鐵價の昂騰で生産不引合を免かれぬ形勢にある。

●白國製鐵不振

最近八幡製鐵所に着した報道によると白國の主要製鐵業者は賃金二割引下を四月十五日から實行した模様で若し職工側にして此の引下を受入れずば疑ひもなく傭主は工場を閉鎖するに到るであらうとされて居る、昨年中既に同國では多數の勞働者が解雇せられたが製鐵業に於ける職工の總數は概算十萬人から七萬五千人に減少して居る若し生産費にして近く低減することなしとせば次の三ヶ月以内に更に二萬五千人の職工は解雇せらるべしと豫期して居る向が多いとうである。

●歐洲製鋼軍縮の打撃

日本製鋼所技師小林四郎氏は歐米に於ける製鐵事業の視察を終へ去月横濱入港のバインツリーステート號で歸朝した其視察談に曰く『短日月ではあるが自分が視察した所では製鋼事業は歐洲より米國の方が遙に發達してゐる、歐洲では獨逸の製鋼事業が一番進歩してゐる、英國の製鋼事業は最近の不景氣と軍縮の影響を受けて今や不況のドン底に陥り全工場の四分の三は休業し僅に四分の一丈けが事業を繼續してゐる殊に英國の資本家は從來支給してゐた戰時手當を廢止した爲め職工側の反感を招き夫れに勞働組合が加擔して製鋼業造船業界に六十萬人に上る大罷業勃發し却々の騒ぎであつた兎に角歐米の製鋼事業は餘程軍縮の影響を受け何れも大打撃を蒙つてゐる様である。』

●米國屑鐵需要

米國製鐵業は石炭坑夫の同盟罷業以來

漸次燃料不足となり一流會社を除き多く燃料難に陥り中には製品の先約を躊躇して居る會社もあり又比較的有力な會社で現在數量の石炭を手持して居るものも燃料に對しては前途に少からぬ不安を感じて居る、其の結果豫め戦後の不況に處するため鐵の生産費を低下せんとして種々と工夫を講じ從來よりも屑鐵を多量に使用して優良な鋼鐵を製造することに成功しかけて居た同國製造業者は何れも屑鐵の利用により石炭を節約する方針を執るやうになつたので屑鐵は相場の割安であるのと相俟つて非常に多く需要される様になり使用量の如きも同國製鐵事業全體より見て鋼鐵の總産額に對する割合は五分内外に過ぎなかつたが昨今は三割五分以上となり然かも屑鐵を多量に使用すると熔鑛に要する石炭を大量に節約されるから前途益々屑鐵を使用するものが増加する模様である、因に同國鋼鐵生産高に對する屑鐵使用割合を戦前と現在と比較せば左の如し。(單位割)

一九二二年一、一▲一九一九年一〇、六▲一九二〇年一二、四▲一九二二年一月一七、九▲同年二月二〇、八▲同年三月二六、二

●米國製鐵視察談

松本健次郎氏談

米國に於ける製鐵業も戦後世界的不況を受けたがそれも昨年十一、十二月を不景氣の絶頂とし漸次回復の方向に轉じて居る、元來米國は全生産額の半分が農産物で其輸出も頗る巨額に上る程であるが不作であつた小麥も此春より價格も大いに回復し延いて農具の實需した事が鐵に對する需要を喚起した一原因である、之に次で鐵道及建築に對する鐵供給の喚起せらるゝに至つたのも亦米製鐵業の最近好變を來した理由であらう其内最も有力なる原因は右の農産の良好なるに基い

てゐる、又一面には鐵業界の整理も略完了せられ今春よりは小規模なる事業の破綻を除いては大體に於て安定を得たのを見て從來警戒嚴重であつた銀行家の警戒も緩和せられた爲め鐵業界は動搖すること少く僅に當用手當の買氣勢を煽揚せらるゝに至つたのである。

從つて鐵價も此一月頃迄は標準棒鐵百封度一弗四十仙位であつたが間もなく一弗五十仙となり價格の騰貴に連れて需要も増加するに至つた固より相場の上には今日も尙大なる昇騰は見られざるも注文の狀態は極めて良化して來た、それと云ふも今迄の相場たる銑鐵一噸十八弗乃至十九弗と云ふが如きは生産原價を切り込める値段であつたが故に少しく買手出づれば賣手は直に強硬となり易いが爲めである、次に鐵道は戦前既に非常なる困難の位置にあり賃金の引上を行つたが然も修繕補充を要する點點からざるにも拘らず等閑に附せられて居たのであるが最近此等の鐵需要は著しく喚起せらるゝに至つた、又石油熱の旺盛に依るパイプ類の需要も亦激増し製鐵業者は之が製造に忙しき狀況である。

次に留意すべきは生産費の問題である即ち生産費を切らざるやう、換言せば採算點を降らざるやう鐵價の引合を得せしめんとする努力は米鐵業界の一般的傾向である之が爲め彼のユー、エス、スチール會社の如きは商品の安値販賣を實行せんと欲し生産原價の低減を計り殊に鐵業の勞働賃金に於ては鐵道炭礦其他の産業に比し一層大なる引下を斷行した。製鐵勞銀引下の比較的容易に行はれしは該勞働者は鐵道従業者の如くユニヲナイズされて居ない爲めて斯くして生産費の一部たる勞銀の低下は行はれたのである。

元來米國に於て生産費の他國に比し安價なるは礦石の安く且之を掘り出すに容易なる事である、然も生産組織は極めて大量生産にして其上機械力の應用行渡れるを以て總經費は日本に比し遙に安く其生産費は戰前銑鐵一噸十弗乃至十二弗に過ぎず、今日に於ても尙十八九弗に當つて居るのである恐らく之は正確に近き生産費と見られ得る（將來に於ても之以下に抵下せしむるは甚だ困難なりと云はねばならない）要之米鐵業者の生産費に對する努力は總ての方面に亘りて随分思ひ切り低下を計つたもので今後も生産費低下の問題に關し注意を拂はる可きは疑ひなき所であらう。

尙最後に問題となる可きは米國に於ける鋼の生産能力である今日米國の製鐵業は彼のユー、エス、スチール、コンパニに於て約五割五分を製産し其他の四割乃至四割五分は他の獨立製鐵會社の手に委ねられてゐる、而して現今の生産能力は戰前の三千萬噸なるに對し五千二百萬噸内外である、即ち之が平均は六分五厘見當に當つて居るのである之に依りて見るも生産能力は尙充分發揮すべき餘地ある事が窺はれねばならない、此點に於ても米國製鐵界の將來は自然の配劑其宜しきを得つゝあると共に總ての組織に於て、將設備に於て世界に雄飛す可く同時に亦將來の發展を囑望すべきものありと云はねばなるまい。

英國製鐵業 次に英國は先進國なりとは云へ製鐵業に於ける經濟的基礎は米國に比して遙に薄弱にして生産其他の諸點に於て米國に匹敵し得るのである、今其一二の例を擧ぐれば例へば勞働賃銀の如きに於て米國ミニマムウエージは一週間不熟練のものにて九弗、熟練するに従つてコンモンレイボ

ア一十二弗見當なるが英國はそれより高い是は尤も英國に於ては米國程賃金を下げて居ない關係にも依るのであらうが何れにせよ賃銀は高位である、尙其實質的組織に於て遙かに劣つて居るものがある、例へば英國に於ける鐵の原料は其四分五厘を西班牙より輸入して居る、而して其價格は港で二十七志を下らない又地方に依り輸入礦石を使用して居る尤も國內にてもイングリッシュ、ヘマタイトと稱する品質良好の者あれど其量極めて少く大部分の原料は品質惡しく従つて生産費も高價を要するもので礦石も英國に於ては其價格不廉である、更に製鐵に缺く可からざるコークスも米國にては三弗五十仙なるに對し英國では二十八志を要するが如き米國のそれとは大なる差異である其他天恵に於て將あらゆる關係に於て英國の製鐵業は米國に劣れる事明かであり悲觀論の甚しきものは英國の製鐵業は將來に於ける英國産業の缺陷であると迄極言してゐる。

然らば本邦製鐵業の現況如何と云ふ問題は自然考慮せられねばならない事柄である、之迄我國の鐵は主として軍需々用の必要に基き戰時異常の發達を來したのであるが今や華府會議の結果各國共に軍備の縮小となり此の方面への鐵の需要も従つて局限せらるゝ次第であるが假りに平和が實現され再び干戈を交へる事無しとするも平時之が供給を全然絶つ譯には行かず今後と雖も鐵の自給自足を計るのに國家の政策として必要なるは勿論なるが我邦に於ては未だ自給のみを以て足れりとする事は出來ぬ是を如何に解決するかは問題である、固より我國は鐵の原料に於て又地理的關係に於て、將凡ゆる天恵に於て不利の立場にある之が對策としては之を關稅に依

りて保護す可しとの説もあり又或は國家の經營に任ず可しとの意見もあり又官營製鐵所を民間に拂下げて官民の大同合同を行ふを良策とすべしとの説もある何れにせよ我製鐵業を此儘自然の成行に放置する時は自滅の外なかる可く之が對應策としては此際合同に俟つの外あるまいと。

●米國製鐵業活況

製鐵註文續出 昨夏五六月以來沈

滯を極めた米國製鐵界は本年に入りてより漸く回復の曙光を示し特に最近に至り需要激増のため活況を呈し斯業専門家に就て製鐵業の景氣挽回を豫想するもの多きに至つた今之を事業に就て觀るに各製鐵會社に對する各方面よりの註文は最近驚くべき程増加し一九二一年の全國鐵道會社の總註文高は約三萬噸だつたもの本年一月及二月に於ける鋼鐵註文高は二萬二千噸と計上せられ又イリノイス製鋼會社の三月中の註文高は一九二一年の總註文高を超過したと報ぜられた。

閉鎖工場再開 斯くの如く激増した需要に應ずる爲に各製鐵工場は頗る繁忙を極め各會社とも續々閉鎖し置きたる工場を再開し多數の職工を雇入れて段々に生産に力を注いでゐるが合衆國鋼鐵會社の現在作業率は全作業能力の七割五分を占め之を全國製鐵業の平均作業率に徴しても現在率は全作業能力の七割に該當して殆ど常態に復歸せんとする形勢を示し特に斯業回復の先驅だつた市俄古地方は生産率に於て首位を占め現在生産率は八割に達し戦前に比して大差なしと唱へられた、彼のゲリーの棒鐵工場は昨今全能力を以て作業しその平均製出高は八割八分である、又インランド鋼鐵會社も全能力の六割を以て作業してゐるが近々更に増加すべき見込である銑鐵の三月中の生産高は二百三萬四千七百九十四噸にして二

月の生産額を超過すること四十萬四千六百四噸昨年六月の生産額に比し十三割五分の増加を示し一九二一年一月以來の生産と稱せられる。

製鐵需要方面 製鐵界の活況を促した需要先は種々あるが最も重要なものは自動車製造會社、電車製造業、建築業、鐵管業、鐵道業等にして就中鐵道の需要は最近益々激増しルイスヴァイル、ナシヴァイル鐵道會社は五百臺の車を註文し紐育セントラル鐵道は最近一萬六千臺の車を分配したが更に二萬五千臺の新註文を交渉中なりと傳へらる、又米國二大汽關車會社は最近四十二臺の汽關車の註文を受け更に三百臺の新註文を見積りつゝある由である、又注意すべきは最近獨逸が多額の熔鐵又は鋼鐵屑を米國に註文したることである、かく異常なる需要に拘はらず製鐵業者間の競争激烈なるため未だ鐵價は著しき騰貴を示さぬが然し現在の價格は既に最近の最低價格を超駕し居ることは勿論此後益々騰貴の方向に進みつゝあることは幾多専門家の明かに認めてゐる所である。

●製鐵所需要原料

大正十一年度の八幡製鐵所に要す

る原料購入契約に關しては白仁長官滯京中親ら其衝に當つてゐるが既に決定した者は石炭直營二瀨炭九十萬噸（昨年に比し七萬噸増加）の外本溪湖炭三萬噸、開平炭十三萬噸（昨年に比し三萬噸増）で炭價は製鐵所渡し十圓で支那四川省四川炭は約五萬噸購入の豫定で未だ交渉中である、鑛石は金嶺鎮五萬噸、朝鮮四萬五千噸、南洋（ジョホール）十萬噸、大冶、桃中に對しては今尙交渉中で未定であるが昨年と同様大冶は二十五萬噸、桃中は十萬噸の豫定である鑛石價格は一噸三圓五十錢見當となつてゐる。銑鐵は大冶から十五萬噸（昨年に

比し五萬噸増)内地品を購入し大冶銑鐵は昨年通り一噸四十六圓見當の見込である、然て同所十一年度の鋼材生産見込高は四十一萬噸で之れに要する銑鐵は約七十五萬噸乃至八十八萬噸を要するので以上契約の原料不足に對しては貯藏品を以て充當する筈である。

●製鐵所鉅力工場開始 錫鑛工場建築地の民家が立ち退かなかつた爲と白仁長官の歸所が遅れた爲め聲許りて延期を重ねて居た八幡製鐵所鉅力工場は既に民家も立ち退き長官の歸所も見たので愈製産には本月中旬頃から着手する由である、生産能力は鉅力が五千噸であつて黒板が一萬二千噸である當分全生産能力の鉅力五千噸を製作する事は勿論望まれない所であるがそれだけでなく初めての製作ではあるし熟練職工が皆無と來て居るから市場に向けるだけの上級品が直ぐ出來るか否かは頗る懸念されて居る、而し市價との權衡も執れさうにない所から先づ當分は製鐵所内の各工場で使用する鉅力の需要に充てる位で市場と英米品と爭ふ迄には相當の時日を要するだらうと觀測されてゐる。

●鞍山製鐵所の原價 鞍山製鐵所の原價費目と豫算決算に關し當局者の語れる所左の如し。

大正九年度		同十年度		(單位圓)	
銑鐵	九三・六〇	八二・八〇	一噸當		
骸炭	三六・七〇	二六・九七	一噸當		
硫安	一七二・一五	一〇八・九二	一噸當		
電力	〇・〇六	〇・〇三五	一キロワット當		
蒸汽	一・五〇	〇・六〇〇	一、〇〇〇封度當		
電鐵	〇・二三	〇・一三六	一噸當		
電燈	二・三三	一・〇七	一箇當平均		

右の結果を見れば大正十年度は九年度に比し銑鐵に於て約二二%、硫安四〇%、骸炭二七%、動力四五%、蒸氣六〇%、電鐵三五%、電燈五五%、水道三%、原料に於ては鑛石、石灰石費何れも二〇—三%の低下を見たり。

次に大正十年度上半期と豫算と決算との比較を見るに電燈、電鐵の五〇%餘を初めとして銑鐵生産費を除き五—五〇%、決算は低下し居れり此等諸費目の低下に係はらず、銑鐵生産の却つて豫算以上九%の高かりしは豫定出銑高二五〇噸に對し平均一七六噸餘を出したるによるなり。

其外消耗品の節約につき述べんに總物件費の七〇%に當る雜用炭は大正八年度上半期は一日一七七噸(動力用炭一二五噸を含む)なりしが九年度は一日九六噸(動力用炭七五噸)となり十年度上半期は四九噸(動力用炭三七噸)となりて總物件費の七〇より四五に低下せり。

●桃沖鐵鑛山近況 安徽省桃沖鐵山にては從來鑛石を兼二浦に四萬噸、室蘭の日本製鋼に七萬噸、釜石に一萬噸を送り居るも愈々本年より一箇年三十五萬噸の採掘能力完成せるを以て來る六月より約十箇年の契約にて八幡製鐵所に毎年二十萬噸宛送付する事となり既に十萬噸を輸送せり、兼二浦其他にては混合して使用するものにして桃沖鐵鑛の最上鑛は七〇%以上あるがため室蘭其他に於ても増額の希望ある様子

なるも、八幡製鐵所とは既に契約済なるを以て本年は此儘となし來年度より若干増額し得べしと云ふ而して桃沖に於ては製鐵業起業の希望なきにあらざるも優良なるコークスを得られざるため其計畫進捗せず、尙目下人夫三千人を使用し一人一日の賃銀は三十錢なり、支那人の能率は日本人の半にして事務員は日本人六人あり森恪氏を事務所顧問となせるも經營狀態不良にして既に三十萬圓の缺損を生ぜり。(支那鐵業時報第五五號)

●鐵鋼在荷

銑鐵增加 本邦銑鐵市場在荷は逐月減少の傾向を辿りつゝありしも最近の調査に據れば二十萬五千七百九十噸と前旬に比して三千四百五十噸餘を増加し前月同期に比し百噸近くの減少に當つてゐる、最近在荷の増加したに就ては格別生産が增加した譯でもなく要するに一般財界の不況に伴ふ銑鐵需要の捗々しからざるに依るものゝ如く今在荷手持筋の内譯を示せば左の通りである。(單位噸)

東京	生産筋	問屋筋	消費筋
一〇、二三一	五、八一四	七、一七〇	
	(外に倉庫三九〇)		
横濱	一、一五〇	一、一七五	
名古屋	三、七三〇	二六〇〇	
大阪	一三、七八〇	一〇、二五〇	
神戸	三、七三五	三五、八四〇	
門司	四、五一七		
長崎	七、四〇一	三一四	二、〇一一
大連	四一、〇二八	七〇	一、六九六
		二〇五	一、四五七

雜
錄

函館	一八一	三三	七六
兼浦	二〇、二〇三		
室蘭	二五、二二七		
釜石	四、一一六		
計	一一四、〇四五	二八、八八一	六二、四七五

鋼材増加 東京 横濱、大阪及神戸の四都市に於ける四月末現在鋼材在荷高は十五萬七百六十二噸にして前月末に比し一萬八千五十五噸の増加を示した、此増加は最近亞鉛引用薄板及び石油會社の實需用鉄力の輸入が多かつた事も一因を爲すが、一方横濱及神戸兩港に於ける艀船の不足甚しく且つ貨車不圓滑の爲め荷主の引取りが意の如くならぬので自然輸入港に荷嵩みを來した結果である即ち其内譯を示せば左の通りである。(單位噸)

鋼	四二、〇七一	鋼	五〇、四〇〇
棒	一〇、四二八	亞鉛引平板	四、六一〇
型	一三、三三三	丸	八、一一〇
鐵	一四、七七六	針	四、〇六〇
針	二、九六〇	合	一五〇、七六〇
其		計	

●米國鐵鋼商況

紐育銑鐵市況 鋼鐵市況氣配手堅く製鋼所も旺んに生産してゐる、炭礦の罷業も燃料に差支へてゐないので重大視されず海外よりの引合としては日本が前週一萬噸のレールを買付け今週亦略ぼ同量の引合ありし外邏羅からも約一萬噸のレールの注文があつた併し銑鐵は輸入生産共に増加した爲に市況引緩んでゐる。

鐵材漸騰 米國鐵材は國內需要益々増加しつゝある一方炭坑罷業が長びくので昨今製鐵事業に尠からぬ影響を及ぼして

ゐるから相場は引續き漸騰歩調にあり尙現在同國で最も需要の多い自動車製造用の鐵板は前途一層需要増加の氣味あり昨今一般に豫期されてゐる大西洋運賃の低下が實現して對歐輸出が増加すると市況は更に硬化するであらうと、標準品神戸沖着相場左の如し。

薄鐵板十三枚物(九十一弗)▲棒鐵、板鐵、型物(四十八弗五十仙)

●米鐵大口買約 米國コンソリデーター鋼鐵會社は、昨年來鈴木商店と鐵材六千噸餘の賣買契約ありたるが此程鐵道省の入札した結果米國コンソリデーター鋼鐵會社製、レール及び附屬品一萬六百噸は三菱商會社と購入契約を締結した、而して其價格は約百萬圓以上なるべく來る七月には全部受渡を完了する豫定で最近の買約として相應大口の注文である。

●鐵材市況

鋼材の需要は本年に入りて三月頃を頂上とし爾來減退を續けて目下猶其中途に在る模様だが相場は概して三月以來保合を維持しつつありと見て大差ない、大勢としては一頃一般金融界が頗る梗塞の形を呈した當時鐵業者間にも大分資金に手詰り投資を斷行する向現れ其爲幾分相場を崩した傾向があつたが幸ひに大事に至らずして熄み、輸入商談は今年に入りて産地高に引換へ内地の相場安に不引合の爲め著しく減少し從つて今後入荷するもの多からざる見込だから目下の在荷薄の傾向が益々助長され秋に入りては一層の品薄を示すと共に一方金融狀態も其頃には相當緩和するだらうから相場は先づ悲

觀するに當るまい、唯目先茲一二ヶ月は昨年末より春に掛けて注文された約定品が依然弗々着荷する筈だから其消化に惱み好く行つて現狀維持と云ふ見當だらう目下需要不振の折柄稍引合を示しつつあるは建築用棒鐵と之に次ぐ亞鉛引平板である。棒鐵は建築工事が尙諸所に繼續せられて居る關係上三月頃の如き優勢は見られ無い乍らも依然相當の需要を呼び從つて相場も並時十貫建四圓七十錢見當と他の品種に比して稍々強氣を持續して居る亞鉛引平板は最近東北地方の屋上制限實施の結果棒鐵に次で需要を示し一圓十五六錢の相場であるが、丸釘は昨年三月頃より獨逸白耳義等の製品輸入あり加ふるに昨年秋季以後米國品の引合相當ありて其約定殘部が昨今入荷しつつある。一方先頃の金融緊縮の結果横濱邊に多量の安値賣物現はれて相場軟化を助長するに至つた、目下横濱渡米國製一樽十一圓五十錢見當唱へである、白葉鐵は食料品罐詰用として需要相當を見越されて居たのが豫想程の需要現はれず旁々金融梗塞と輸入品潤澤の爲め安値となり百封度物十一圓、百七十封度物二十圓精々にて薄板類は平板製造用厚板は平板の需要に連れて荷動き相當の模様であるが之亦品潤澤と金融關係より安物弗々現はれるらしい然し最近幾分持直し一頃の如き安値は見當らない相場は十三枚物一枚建七十錢猶ほ厚板類は商狀變動なく値合も十貫目四圓十錢見當に保合つて居る。